
旋律は、ただ儚く空を舞う。

寧祈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

旋律は、ただ儚く空を舞う。

【Nコード】

N7639A

【作者名】

寧祈

【あらすじ】

ただ1つの歌を歌うただけに、ただ1つの踊りを踊るただけに生まれた『からくり人形』彼女はただ、歌う事、踊る事だけを望んでいた…。

（前書き）

子供達に遊ばれる、おもちゃ。そのおもちゃ 人形の視点で書いた小説です。へなちょこですが、読んでやってください。

狂おしい程綺麗な旋律　透き通ったガラス玉想像させる　消えて
しまいそうに儚い歌声。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

その旋律はひどく綺麗で、また哀しみを帯びていた。何処ともつかない外国語の言葉、歌。白い顔を目立たせる赤と黒のドレス。自分の名前も知らず、ただ歌い、踊るために生まれた。彼女は『からくり人形』と呼ばれる、ただ1つの歌を歌う歌姫だった。

キリキリ…背中の中が、子供の手によって巻かれる。

【嗚呼、歌わなければ。踊らなければ】

手が離された瞬間、彼女は口を開き、全身を使い、歌い、踊りだした。歌うのは、彼女が生まれた遠い外国の歌。踊るのは、彼女の生まれた遠い外国の踊り。

ただ1つの歌を歌うためだけに生まれた。ただ1つの踊りを踊るためだけに生まれた。ただ1人の人間を喜ばせるためだけに生まれた。そんなからくり人形。

【嗚呼、私は歌うため踊るためだけに存在する】

歌い続けた、踊り続けた彼女は、いつの日か飽きられ、おもちゃ箱の中へと投げ込まれた。そのうち彼女は、おもちゃ箱の1番下で、使われるのを待つようになった。

上から、新しいおもちゃが投げ込まれる。その分の重さが、彼女にもかかった。

【嗚呼、誰か私を助け出して】

彼女の叫びは、ある日皮肉な形で子供達に届く。すっかり成長した子供達は、おもちゃ箱の処分を決めたのだ。そして、彼女を手にとった。彼女はなおも訴えた。

【嗚呼、私は歌うため踊るためだけに生まれた。歌わせて躍らせて】

しかし、その願いが叶うはずもなかった。

「この人形、からくり人形？ もう使えないわね」

【嗚呼、待って、私はまだ歌える踊れる】

成長した子供達は、おもちゃ箱をある丘の大木の近くに捨てた。上に積み重ねられたおもちゃ達は、やって来る子供に拾われ、新しいおもちゃ生を踏み出していた。

【嗚呼、私はもう歌えないの？ 踊れないの？】

1番下に詰め込まれた彼女が人の手に渡ることは無かった。それでも彼女は、来る日も来る日も待ち続けた。歌わせてくれる人間を。踊らせてくれる人間を。

【嗚呼、歌わせて踊らせて】

彼女の身体が風化し、そこから消えても 彼女の想いはそこに留まり続けた。

彼女の願いは、捨てられた場所、大木へと託された。

+++++

大木は 彼女は今日も歌っている。

哀しい程綺麗な旋律。 何処ともつかない外国の言葉、歌。 彼女が生まれた遠い外国の歌。 彼女しか知らない遠い外国の歌。

誰かに届くように。 誰かが気付くように。 彼女の歌声は舞い、儚く響いていった。

（後書き）

このような小説は初挑戦でした。どうでしたでしょうか？もしよければ、小説評価の方でアドバイスをくださると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7639a/>

旋律は、ただ儚く空を舞う。

2011年1月26日03時05分発行